

プロジェクト制による展示会の企画と開催、作品の制作

プロジェクト構成員

井藤昂、宇野芳記、叶田倫人、小林千尋、徳谷理紗、丹原亮、松田泰典、林昌俊、大久保智代、大澤育枝、岡島幸司、岡本千絵美、鴨野有理江、木戸歩、坂木陽子、鳥羽舞衣子、中川由美子、西川学、林俊明、福田貴久、福田太郎、藤岡一也、松尾知哉、松崎友紀、安井仁彦、山崎亮平、山本優三、浅香桂希、川口静香、山本さ知恵、富永彩容子、日下諒子、山田雄紀、吉田知央、杉史也、加藤唯衣、永田佳世子、十和周平

指導教員

松延 拓生（システム工学部）

演習の背景・目的

デザイン、創作を志す私たちにとって、創作活動や展示会の企画、開催などの経験を積み、評価を得るということは非常に重要なことではあっても、大学の授業の一環に、そういった活動はあまり多くはないと感じられます。こういった経験は、たとえ将来どんな道を歩もうとも、必ず役に立つものだと思信しています。

今回、私たちは自主演習を通して、授業以外で自主的にプロジェクトを立ち上げ、経験を積んで将来に生かそうと考えました。

また今回のプロジェクトは、和歌山市の人たちに、和大学生が何をしているのかをもっと知ってもらいたい、という意味を含め、学外にて展示会を開催し、かつ和歌山市民の人たちとのコラボレーションを企画しようと考えました。

演習の実施方法

今回は、11月に行われる秋の展示会を中間ポイントとし、12月に行われる学外展示会をゴールと決めました。

秋の展示会では作品を制作・展示すると同時に、来場者参加型の企画を開催します。来場者参加型の企画とは、会場内に手のひらサイズのプラスチック板を用意し、来場者にショート作品（何を書いても可）を書いてもらうというものです。このプラスチック板を用いて、私たちが1つの作品（コラボレーション作品）を制作し、学外展示会にてそれを展示します。



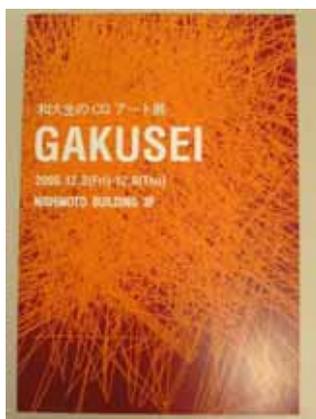
プラスチック板のショート作品



コラボレーション作品（本の制作）

< 取組内容 >

- 広報用ポストカード制作
- 持ち帰り（プレゼント）用ポストカード制作
- コラボレーション作品（本）の制作
- 会場設営（展示パネル、照明設定など）



ポストカード

< 広報活動 >

- メディアへの呼びかけ（わかやま新報、リビング和歌山、大学イベント）
- 大学祭にて告知
- お店にポスター掲示
- 和歌山市駅にてポストカード配布



和歌山市駅にて



わかやま新報

<計画>

- 秋の展示会 -

8月

初ミーティング

9月

テーマ決定

広報デザイン案出し

会場デザイン案出し

10月

会場デザイン

ポスター、ビラ、ポストカード制作

ビラの配布

11月

会場準備

展示会開催

- 学外展示会 -

6月

初ミーティング

7月

会場探し

案出し

9月

会場決定

10月

広報デザイン（ポスター、ポストカード）

コラボレーション作品案決定

11月

会場案決定

会場準備

コラボレーション作品制作

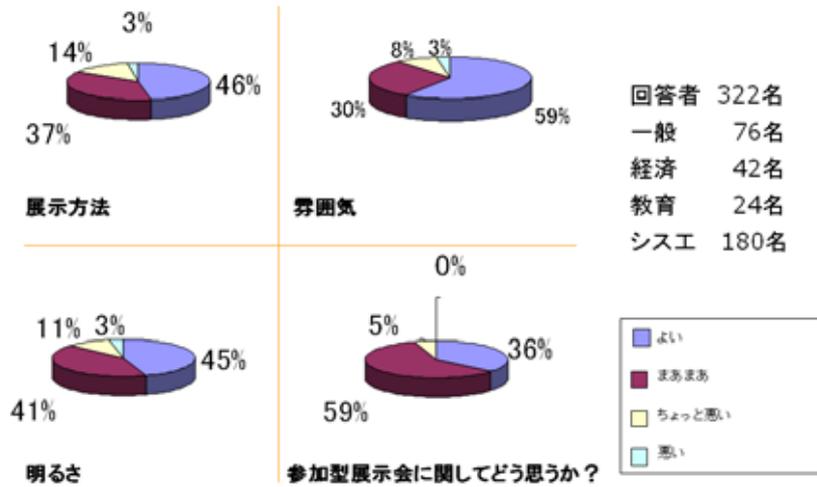
12月

広報活動

展示会開催

演習の成果

<アンケート>



アンケート結果 1

アンケートでは、4つ全ての項目において「よい」「まあまあ」が8割以上を占めていたので、展示会場作りに関しては成功と考えられます。

項目 / 展示会に行く or 行かない

学生		展示会に	
		よく行く	行かない
意欲あり	文化活動に興味あり	0.39	0.28
	なし	0.04	0.09
意欲なし	文化活動に興味あり	0.43	0.42
	なし	0.14	0.21

一般		展示会に	
		よく行く	行かない
意欲あり	文化活動に興味あり	0.24	0.00
	なし	0.31	0.38
意欲なし	文化活動に興味あり	0.07	0.00
	なし	0.37	0.63

アンケート結果 2

このアンケートでは、意欲（よく町に出かけるかどうか）、文化活動への興味、そして展示会などのイベントによく行くかどうかを調べました。

学生（和大生）は「町に出かけることが少ないが、文化活動に興味あり」という結果が出ました。考えられる原因としては、学生は和歌山が地元ではないために展示会などのイベントが行われる場所や情報が入りにくい、お金や交通手段の問題で足を運べない、などが考えられます。

今後の検討課題

学外展示会にて設置した持ち帰り用ポストカードは300枚以上持って帰ってもらったなど、沢山の人に足を運んでもらえました。また、わかやま新報への掲載など、和歌山市民へのアピールをすることが出来たので、和歌山市の人たちへ活動を知ってもらうという目的は達成できたのではないかと考えられます。しかし、なかなかイベントに足を運ぶことの出来ない人や、イベントを知らない人がまだ沢山いると思うので、今後はそういった人がいることを考慮して企画を進める必要があります。例えば、より身近で足の運びやすい会場を探し、広報活動を更に積極的に行って、町の人に活動を知ってもらう、などです。

学外展示会は今回が初めてなので、私たちの活動を和歌山市の人たちに更に認知してもらうためには、継続的に時間を掛けて行っていく必要があると思います。

写真

